

第 2 回厚木地域小児等在宅医療連絡会議の概要

1 日時：平成 28 年 12 月 19 日（月）19：00～21：00

2 場所：神奈川県厚木合同庁舎

3 議題

（１）小児在宅医療患者のためのメディカルショートステイ実施状況調査結果について

・調査結果について説明。

（２）平成 29 年度厚木地域の関係機関が行う小児在宅医療にかかる取組み内容について

・平成 29 年度以降の厚木地域の関係機関が行う小児在宅医療に係る取組みについて、検討。

（主な意見）

①体制構築

【No.1】

- ・ 地域包括ケアシステムに小児も入れていきたい。厚木だけでなく、愛川町や清川村も含めてやっていきたい。たとえ予防接種だけでも、医師会の相談事業としてやっていけるとし、どんなことが必要なのか関係者と協議を進めていきたい（厚木医師会）
- ・ おうちで往診してくれる場面がほしいというときはやはり開業医の先生が頼り。医師会として小児も地域包括ケアシステムの中で考えていきたいといっただけでありがたく思う。行政の立場でできることは一緒に進めていきたい（厚木HWC）
- ・ 病院から継続看護の依頼があった場合に、今は地域の中で予防接種だけしてもらいたい、風邪を引いたときだけ診てもらいたいというとき、今は自分が知っている先生にお声がけするが、そうではなくてシステムとしてできあがると、複数の医師を紹介できるようになり、市としての受入体制が作れるといい（厚木市健康づくり課）
- ・ 医師会の先生方との話し合いを通じて、当事者の方へより踏み込んだ支援や情報共有ができるので、よい方向に進んでいくのでは（厚木市福祉総務課）
- ・ 福祉側は、医療機関との話がなかなかできないというのがあるが、医師会さんから会議開催の提案があったことで、障害福祉課として課題であったことが解決できるのではないかという希望をもっている（厚木市障がい福祉課）
- ・ 市立病院でできることと、医師会の先生方にできることとしっかり役割分担することが大事。在宅を進めるうえでメディカルショートステイはどうしても欠かせない。中心となる施設だと思うので、積極的に関与していきたい（厚木市立病院）
- ・ メディカルショートをより使いやすくしていく方法を考えるなど、会議の場で話せると利用者さんのためにもなる（ふたばらいふ）
- ・ 今は、知っている人に少し聞けるのでいいが、ずっと顔の見える関係性が継続していくことが厚木市のなかでは必要。（もみじ）

【No.3】

- ・ 厚木市障害者協議会の発達支援部会に重心の方の検討するところがある。そこに学校として参加したい。今後、地域の中での生活と考えると、地域の小中学校に関わる方が増えることが予測されるので厚木市の教育委員会にも入ってもらえるとよい（座間養護）
- ・ 親としてみれば、その子を知っている人が地域にたくさんいるということは心強い。緊

急時もいまだに慌てて、かかれる病院を探すところから始まる。今はまだ訪問看護ステーションの看護師さんに頼るという状況。（座間養護PTA）

②コーディネート

【No.9】

- ・ 介護保険でいうケアマネのような方がいると母親も安心する（厚木市健康づくり課）
- ・ 福祉側は医療についての情報が非常に少ないので、一貫した支援が途切れてしまうのをつなげられるコーディネーターがいるとよい（厚木市福祉総務課）
- ・ どのタイミングで、どの支援機関が濃厚にかかわっていくのかは経験的にイメージできる部分もあるが、それを全員で共有したい。全員で共有できると、コーディネートを引き受けるのも安心して受けられる。うちだけががんばらなくていいと思える（厚木HWC）
- ・ 実際には、どこがコーディネーター役というように、一つのところに決めるのは難しい。個々のケースについての事例を持ちよりながら、このケースはこうした関係機関が集まって解決したという事例をみんなで共有できるとよい。（リハセンター）

※コーディネートについては、引き続きの検討課題としたが、各自でできることから取り組むこととした。

③人材育成

【No.11】小児科及び内科医向け研修会

- ・ 厚木医療福祉連絡会の訪問看護部会でアンケートを行い、意見徴収した課題へ対応する形で研修を検討している。28年度は基幹相談支援センター松井さんと訪問看護もみじさんに講義してもらった。情報共有含めて、研修をしていきたい。（ふたばらいふ）
- ・ 医療的ケアを持つお子さんは、保健師や訪問看護の看護師が中心にかかわっているケースが多い。福祉側への引継ぎがもう少しうまくいくように連携したい。（ゆいはあと）

【No.14】

- ・ どのような連携や関係性があるのか教育相談コーディネーターはわかるが、一般の教員はまだ知識が不足しているので、勉強会をしていきたい。ゆいはあとさんを講師に研修会をやりたい。（座間養護）

④資源把握

【No.19】

- ・ メディカルショートについて、障害のあるお子さんを持つご家族が均等に利用できる状況をつくるための情報提供ができるとよい（ふたばらいふ）

【No.16】

- ・ 養護学校から卒業してくるお子さんの受け皿が十分にあるのか知りたい。放課後デイサービスと生活介護事業の実態調査をしたい。各事業所も経営が安定しないと受け皿を増やすという方向へ進まないで、実態を調べたうえで今後どうしたらよいのか検討していきたい（もみじ）
- ・ 放課後デイについては、需要がどの程度あり、事業所の供給は現状このくらいというのを調べたうえで、既存のサービスのどの点を改善していけばよいか検討していきたい。

(ゆいはあと)

- ・ 利用する側の視点からサービスをとらえる必要があるのではないか（厚木児相）

⑤普及啓発

【No.20】

- ・ 障害を持つ母親は、子育て支援サービス一つ使うのも躊躇されるため、子育て支援サービスをうまく使ってもらえるように普及啓発し、お母さんが生活しやすい状況を作る必要がある。（厚木市健康づくり課）

【No.21】

- ・ 『在宅でケアが必要なお子さんの保健・福祉ガイドブック』について制度改正などを反映させ、更新していく。平成 24 年度に作成してから、配布方法は各市町村に委ねられているが、あまり進んでいない状況（厚木市障がい福祉課）

⑤情報集約

【No.17】

- ・ 対象児の情報集約ツールは各医療機関や関係機関ごとに様式が定まっているので、入院するたびに御家族がいろんなことを書かなければならず、負担になっている（こども医療）
- ・ 養護学校にも定まった様式があるが、共有するのは学校内にとどめられている。この様式が学外の病院やデイサービスでも利用できるようなといい。地域の小児科でも緊急時に持っていけば、ここの小児科にかかるとかとなるといい（座間養護 P T A）
- ・ 20 歳になると障害者年金の手続きをするが、その段階で小さいときにどの病院にかかったとかを調べなくてはいけないケースが出てきたとき、大変だったことがある（リハセンター）
- ・ 療育のときから書き始めた対象児の情報が、学校に入るときにまた書き直してもらわないといけない。（座間養護）
- ・ 内容統一ができていれば、病院は受け入れやすいかもしれない（こども医療）
- ・ たくさん重なっていくと、どこが重要なかわからないこともある。大切なポイントを示すことも大切（厚木市立病院）
- ・ 在宅の方の予防接種をしたが、十分病歴を聞く時間がなかった。情報集約する場合も、医療関係者はここを見ればよい、というのがわかるようになっているとありがたい（厚木医師会）
- ・ どうしたら、他の事業所や施設でも利用していってもらえるのか考える必要がある。対象児の情報集約ツールは活用範囲を広げるありきではなく、実際に使える項目になっているかを事前に事業所へ確認する必要があるのでは（厚木児相）
- ・ それぞれの事業所で使っている書式はあると思うが、どこかで重ねていくことができないかという願いは少しずつしていけるのではないかと（厚木HWC）

【No.18】

- ・ 秦野地域の取組でライフステージに合わせた出来事を時系列の計画として事前に御家族に見せていくのも重要なことである（総合療育）

【総括】

※コーディネートに係る取組内容については、引き続きの検討課題としたが、各機関で
できることから取り組むこととした。

（３）厚木地域のモデル事業の方向性について

- ・平成 29 年度の会議議題や県小児等在宅医療推進会議での検討事項について説明、また会議
委員就任の協力を依頼。

4 次回開催予定

平成 29 年 9 月頃

(以上)